



連載 資産運用「茶飲み話」(26)

岡本 和久

もうひとつの人的資産形成

人生は三つのステージに分かれます。学びの時代、働きの時代、遊びの時代です。学びの時代には自分の知識や技術を磨き、自分という資産の収益率を高める必要があります。そして、活動の中心は徐々に人的資産を活用して金融資産を形成することに移ります、これが働きの時代です。プロとして社会的使命を果たしながら生活のための金融資産を稼ぐ。そして退職を迎えると遊びの時代に入ります。本来、遊びというのはお金のためではなく、自分の幸福感・満足感のために働く。自分の一番したいことをするとそれが世の中のためになる。それが本当の遊びです。この時期、金融資産を活用して、生き様を形成していくのです。そして、生き様を次の世代に見せてあげることで次世代の人的資産形成に役立てる。これが生き様の活用です。こうして命は次の世代へと受け継がれていくのです。



株式でも債券でもその本源的な価値はその証券が将来にわたって生み出すキャッシュフローの現在価値を合計したものです。人間にも同じことが言えます。一人の人間が将来にわたって生み出すキャッシュフローの現在価値がその人を単なる金融資産とした見た場合の人的資産価値です。公務員などは債券型、テレビタレントなどはボラティリティーの高い株式型と言えるでしょう。

人的資産を高めるためには自分の収益力をアップしなければなりません。それには家庭や学校での教育、職場でのトレーニングや経験、そして様々な自己啓発のための投資などが必要です。しかし、一人の人がすべての分野で専門性を持つということは現実的に無理です。そこで必要なのが他の人の人的資産を借りるということです。自分をサポートしてくれる友達の輪が広いほどその人は効率よく自分の人的資産からの収益率を高めることができます。そのようなサポーターの輪をつくること、これも立派な投資だと思います。

つまり、友だちという他者への投資です。私ごとですが、70歳も間近に控えて、体力的にも時間的にも色々な制約に直面することがしばしばあります。そんな時に本当にありがたいのが友だちの助けです。すべての専門能力を自分だけで持つ必要はないのです。いまから私が弁護士になろう



長期投資仲間通信「インベストライフ」

と思っても無理です。しかし、弁護士の良い友達を持っていればそれで用は足りる。むしろ、特定の分野にトップクラスの専門家を雇うことが必要な場合もあるでしょう。そんなときもある程度、業界の事情に通じた友だちのコメントは貴重です。特に自分の持っていない能力・知識・技術を持っている友だちは貴重です。そのかわり、自分にも専門能力があり、それをもって友だちを助けてあげることが条件です。

友だちの輪は急に広がるものではありません。長年にわたって幅広い交友関係を築くことが必要なのです。それは生涯を通じて続くものです。一番重要な原則は「敵をつくらない」ことです。最近の若い方を見ていると(と言うととても年寄りくさい言葉でいやなのですが)どうも敵と華々しく喧嘩することが自分の強さを見せつけることだと思っているのではないかと感じることがあります。しかし、それで相手を言い負かせたとしてもそれは短期的なこと。やっつけられた方はその悪印象をずっと引きずることになり、その分、本人の友だちの輪は小さくなってしまいます。

敵は一番良い状態で「何も害を及ぼさない」、悪くすれば「害を及ぼす」ものです。友だちは悪くても「何も害を及ぼさない」、多くの場合、「助けてくれる」のです。つまり、どう考えても敵をつくるよりも友だちを作った方が得だとすぐにわかるとおもいます。あくまで私の経験によるものですが、友だちを増やすには笑顔、明るい声、ポジティブな言葉、思いやりのある態度などがあげられます。そして、大切なことは「こちらが心底、相手を好きになれば相手も好きになってくれる」ということです。友だちを増やすための投資は非常に大きな長期的成果をもたらします。

人的資産形成というと一般に自己啓発を目的とするものですが、他者の人的資産への投資を行いサポーターの輪を広げておくことは豊かな成功に満ちた人生を送るための鍵だと思います。

なぜ、アメリカ人はかくも消費できるのか

しばらく前になりますが、かつて11年を過ごしたニューヨークに行きました。クリスマス・シーズンだったこともあり、マンハッタンの街もお店も人がいっぱい。クリスマス・ツリーで有名なロックフェラー・センターなどはニューヨーカーだけではなく、全米からのお上りさん、全世界からの観光客でごった返していました。人気のハード・ロック・カフェなどは昼間から超満員。家族で食事をする人々、ビジネス・ランチらしき人たち、恋人同士、いろいろな人たちが大きな声で話し、笑い、食事を楽しんでいました。やっぱりアメリカの景気はいいのか、それともクリスマスは特別なのか……。

私がニューヨークで生活していた時にクリスマスの楽しみだった、ラジオ・シティ・ミュージック・ホールのダンスショー「クリスマス・スペキュタキュラー」も観ました。こちらも何と6,000人の座席が満席。しかもこのショーは日に3~6回行われており、週に計32回の公演があります。そして、この出し物は11月7日から12月31日まで開催されますので単純に計算すると約150万人が観ることに



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

なります。

クリスマスに限らず昔からアメリカ人は消費好きです。反対に日本人は質素節約を旨として、貯蓄をするのが好きとされます。しかし、アメリカ人といえども収入は無制限にあるわけではなく、むしろ雇用環境は厳しいともいえます。それではどうしてこんなに消費することが可能なのでしょうか。

アメリカの家計の金融資産のうち半分以上は株式、債券、投資信託などの有価証券です。一方、日本のこの比率は10数パーセントに過ぎません。さらに、日本では全体の半分以上が預貯金で、それに年金・保険を加えるとほぼ7、8割に達します。

「72の法則」というよく知られた複利計算の方法があります。複利の効果を表す数式で、 $\text{利率} \times \text{年数} = 72$ になる組み合わせで資産が倍になるというものです。例えば2%の運用を36年間行くと資産が2倍になるのです。3%なら24年、4%なら18年です。

30歳の人頑張って年間で50万円投資したとしましょう。仮に利率が2%としても36年、つまり、30歳の人66歳になる時には100万円になっているのです。3%なら145万円、4%なら200万円以上です。30歳の時に行った投資が66歳の時の生活費であると考えれば、日本のようにほぼゼロ金利で資産の過半を延々と預金するのとは大きな違いがあります。

仮に66歳の時に145万円必要だとしましょう。アメリカ人が3%で運用したとしても、30歳の時に必要な資金は50万円です。しかし、ほぼゼロ金利で日本の人がひたすら預貯金をするなら30歳の時に145万円も必要になってしまうのです。およそ100万円近い購買力の差が30歳の時点で生じるのです。

そう考えるとアメリカ人が楽しく消費できるのは、彼らが有価証券投資にかなりコミットしている結果ではないかと考えられます。反対に日本で、30歳の人年間145万を老後資金に用意するのはかなり難しいでしょう。頑張って年100万円貯めたとしても、ゼロ金利のままなら66歳で使えるお金は100万円のみです。つまり、今の購買力の差だけでなく、退職後の購買力の差もかなり大きなものになります。

もちろん、ゼロ金利が今後、数十年も続くとはいえないでしょう。しかし極めて低リスクの預貯金とリスクのある有価証券とでは、その差が長期間で大きくなるのはいうまでもありません。アメリカのクリスマス消費を見ながらそんなことを考えました。

「投資は世のため、人のため」



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

私は「ハッピー・マネー®四分法」と称して、お金の四つの使い方を提唱しています。それらは「使う＝消費」、「貯める＝貯蓄」、「ゆずる＝寄付」、「増やす＝投資」です。額に汗をして一生けん命に稼いだお金、堂々と「金遣いの王道」に沿った使い方をして、お金を幸福感に変換していきたいものです。

消費は「いまの自分」のため、貯蓄は「少し先の自分」のための金遣いです。そして、寄付は「世の中の困っている人」のために行うものです。それでは投資は何でしょうか。投資は「ずっと将来の自分」のためです。遠い将来に向かって増やしたいお金はいますぐに使うお金ではありません。しかし、世の中にはいま、お金が必要な企業もあります。そこでそのような企業にいますぐに必要なではないお金を融通してあげるのです。

企業はそのお金を活用して世の中のためになる事業を起こし、顧客に感謝され、企業が大きく育っていきます。そして、長い時間をかけて企業価値を増大してその一部が投資のリターンとしてお金を融通した人のところに戻ってきます。これが投資というものの本質です。つまり、投資によって、ずっと将来の自分、いまお金を必要とする会社、世の中全体がメリットを受けるのです。

多くの方が「貯める」と「増やす」を混同しています。貯めるというのは貯金箱や引出しに少しずつお金を入れていくようなもの。つまり、お金は貯まっていくけれど、500円が550円になるというように育つわけではありません。増やすというのはお金を経済の流れの中に投げ入れて、お金を活用してもらい収益を上げることです。お金は世の中の役に立ってこそ育つものです。経済に付加価値を生み出すからこそそれが将来、リターンとして帰ってくるのです。

自分の価値観で良い世の中創りに貢献している企業を投資によって応援する。そして、その資金によって企業が成長し、良い社会ができ、将来の自分の経済基盤を構築することもできる。「私はお金を貯めているから投資などしない」というのは、その資金を経済の流れから引き離してしまうこととなります。結局、自分のことしか考えていないのです。それよりも良い社会創りを投資によって応援していく方がずっとハッピーなお金の使い方だと思います。投資は世のため、人のためになる行為なのです。

天行は健なり

ほとんどの方がほぼ毎日、見るものに天気予報があるでしょう。最近は東京の予報だけでなく、渋谷区と江戸川区のように細かく分かれて今日の天気を知ることができます。もちろん、東京だけでなく、日本全国の天気も分かりますし、世界の主要国・地域・都市の情報だって知ることができます。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ひとつずつの都市の天気はみんな異なるのですが、もう少し大きな地域で見れば、その付近の全体的な気象状況がわかります。地球規模で見た場合、それぞれの国は独自の気象環境にありますが、大陸規模で見ればもっと共通した状況を把握できます。そして、地球自体が宇宙的な規模での環境にさらされているのです。

毎朝、太陽が昇ってくるのを見ていると思わず手を合わせて、「こんにちさま、ありがとうございます」と拝みたくになります。でも、雨の日もあります。そんな日は日の出を見ることはできません。また、台風が来ることもあるし、雷雨のこともあります。しかし、地上の我々からは見えなくても、間違いなく太陽は運行を続けているのです。「天行は健なり」、これは周易の言葉ですが、まさに天の動きはただ、粛々としかるべき活動をしているのです。晴れたり、曇ったり、それは我々の置かれた環境でそのように見えているだけで、天は実に揺るぎのない健全な動きをしているのです。

株式市場も同じことです。我々の立ち位置によって我々がどう感じるかは異なります。いくらマーケットが上昇していても保有銘柄が暴落していたら面白くありません。しかし、観測する範囲が広がるほどに気象状況を共通化することができるように、マーケット全体を見ればその底流に流れる傾向を見て取ることは可能です。さらに、日本の気象が地球規模の状況に影響されるように日本のマーケットも世界のマーケットの一部分です。

太陽の運行が「健」であるのと同じように、それに相当するのが世界中の企業の活動です。お日さまが雲で見えようと、見えまいと、天行は健です。株価が上がろうと下がろうと、企業活動は粛々と続けられています。毎日、毎日、企業では額に汗をして働く人たちが付加価値を生み出してくれています。それこそが究極的な投資リターンの源泉です。天行は健、企業活動も健なのです。